第７回富山県地域交通戦略会議　議事録

日　時：　令和６年２月２０日（火）１０：００～１１：２０
場　所：　ＡＮＡクラウンプラザホテル富山３階　鳳
出席者：　委員名簿のとおり

１　開会

２　挨拶

●新田知事

おはようございます。皆様には大変お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

初めに令和６年能登半島地震で被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、大変な震災の後、地域交通サービスの運行の早期再開、安全確保に力を尽くしていただいた皆様に心から感謝申し上げます。

さてこの富山県地域交通戦略会議では、一昨年６月に立ち上げて以来、議論を重ね、本会議の下の部会でも多くの会議を重ねていただき、昨年 12 月に富山地域交通戦略素案を了承いただいたところでございます。

素案では地域交通サービスを地域の活力・魅力に直結する「公共サービス」と位置付け、自治体や県民の役割も、事業者への側面支援といったところから自らの地域に対する「投資」・「参画」へと舵を切ることとし、ともに取り組む施策をとりまとめたところです。

今月８日には、城端線・氷見線鉄道事業再構築実施計画が、改正地域交通法施行後、全国で初めての計画として認定を受けました。この計画においても、本会議で話し合った、地域交通戦略の考え方を明確に位置付け、書き込んでいるところでございます。

また、昨日、この戦略にとって１年目に当たる令和６年度富山県当初予算案を発表させていただきました。今後は、市町村、県民の皆様、また交通事業者が思いを共有して、この戦略に基づき、施策を着実に実行していくことができればと思います。

戦略会議を立ち上げてから、１年と８か月、長丁場でございましたが、本当に毎回活発なご議論いただいて参りました。本日は地域交通戦略の最終のとりまとめの段階であります。それぞれのお立場から忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

３　議事

（１）富山県地域交通戦略（案）について
（２）質疑応答・意見交換

●石井会長

皆様おはようございます。会長を仰せつかっております石井晴夫と申します。どうぞよろしくお願いします。

はじめに、令和６年能登半島地震で被災されました皆様、心からお見舞い申し上げます。また交通事業者の皆様には、地域交通サービスの早期再開、そして安全確保にご尽力いただき本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

また新田知事からもお話がございましたように、本会議も２年近くにわたり委員の皆様から活発なご議論をいただきました。本日は、最後のとりまとめの会議となっております。これまでの委員の皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。

一昨年からの会議を踏まえて、本日まで様々な富山県内の地域交通のあり方、その重要性が県民の皆様から認識されているということで、本当にうれしく思っております。また、今朝の新聞各紙で報道されているように、昨日の予算発表で交通に関する様々な施策が予算によって裏付けされ、令和６年度に具体的に進行することを実感し、本当に感無量な思いで拝見しました。

そのような中、城端線・氷見線の移管も新たな国交省の地域公共交通活性化再生法改正後、第１号に認定されたということで、これも全国の注目を集めているところでございます。

委員の皆様におかれましては、本日もそれぞれのお立場から忌憚のないご意見、ご提案を賜りまして、最終的な計画の策定に向けてご議論いただきますようお願い申し上げまして、冒頭のご挨拶とさせてだきます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは着座にて、議事を進行させていただきます。

これまで、富山県地域交通戦略会議や各部会は、本日を含め、全 26 回にわたり会議を開催していただきました。本当にありがとうございました。富山県地域交通戦略の策定に向けた議論が深まったのは、委員の皆様方のお力であると思います。

昨年 12 月の全体会議におきましては、地域交通サービスを「公共サービス」として位置づけること、それから、地域の活力・魅力の向上のために必要とするサービスの実現は、地域の当事者の自治体・県民の皆様による「投資」・「参画」によって目指すこと、このようなことをご了承いただきました。

本日は素案のとりまとめ後に実施されたパブリックコメントの結果や、計画を踏まえた今後の取組み・進め方について事務局からご説明をいただいた後、富山県地域交通戦略の最終的なとりまとめにつきまして、皆様と議論を行いたいと存じます。

それでは、議論に入る前にまず事務局から一括してご説明をお願いしたいと思います。それでは、ご説明よろしくお願いします。

●事務局

（資料１、資料２、資料３、資料４に沿って説明）

●石井会長

ただいま事務局より、富山県地域交通戦略の最終案が示されました。

前回の全体会議で素案をご了承いただいた後、先程ご説明いただいたように、１月から２月にかけ約１か月間パブリックコメントを実施し、県民の皆様からご意見を伺いました。

パブリックコメントで寄せられたご意見に対する考え方については、ご説明いただいた資料１の通り、今後計画に位置付けた施策の実行等を通じて関連の取組みを進めていくこととしております。

資料２、資料３では、富山県地域交通戦略の最終案が示されております。一部、今後の取組みを踏まえた表現の変更等はございますが、計画の基本的な考え方、方針、計画の目標、地域交通ネットワークの目指すべき姿、関係者の役割分担等、実質的な内容につきまして、素案の段階から特に変更はございません。

また資料４では、来年度もこの全体会議や部会を開催するなど、計画策定後の取組みや進め方についてご説明がございました。

本日は、この富山県地域交通戦略の最終案について、本会議として了承するかどうか、委員の皆様のご意見を伺いたいと考えております。皆様には、素案の段階で一度ご了承をいただいておりますが、これまでのご議論等を踏まえまして、本案にご賛同いただけるかどうか。また、パブリックコメントの結果や、計画策定後の主な取組みや進め方につきまして、現時点で何かコメント等ございましたら、ご発言をよろしくお願い申し上げます。

大変恐縮でございますが、時間の都合もあるため、私から指名する委員の方から順にご発言をお願いします。できるだけ時間内に多くの委員の皆様からご発言を賜りたいと思います。お１人およそ３分程度でお願いできれば大変ありがたいと思います。

それでは、はじめに鉄軌道サービス部会部会長の関西大学の宇都宮先生からよろしくお願いいたします。

●宇都宮委員

関西大学の宇都宮でございます。富山駅について、普通に皆様が移動されていますが、今回の震災では恐らく多くのご苦労があったと思います。改めてお見舞い申し上げるとともに感謝申し上げたいと思います。ポイントだけ幾つか申し上げたいと思います。

まず、今回の戦略はこれまでも議論してきたことが反映されたということで、基本的にすべて賛成ということをまず申し上げた上で、パブリックコメントを見ても、非常にポジティブな内容だったため、よかったと思っております。

事務局からのご説明の中に店舗を待合スペースとして活用するという話ございました。先日、ＪＲ西日本の姫新線の太市駅に行ってまいりました。ここは、駅前の店舗を使うのではなく、駅自体が民間の会社になっておりまして、その会社が１階で店舗運営しているケースでございます。富山県内でも駅に図書館というところもありますが、山形県の山形鉄道の長井駅は、駅が市役所になったケースもございます。その

ような意味では、駅前の店舗と提携するというのは非常に良い試みですが。さらに言えば駅を民間の会社に使ってもらう等、もう一歩踏み込んだことがあってもよいのではないかと思います。

今後、今回の戦略会議の内容をもとに、具体的に物事を進めるにあたって、これを絵に描いた餅にしないようにしっかり「投資」をしていただくことが重要ということで、まずは第一歩だと思っております。

特に今回、城端線・氷見線については、具体的な案が出ており、非常に素晴らしいと思っております。私も、県外、あるいは国際会議等でもこの話をしておりますが、城端線・氷見線以外にも、富山県は広く、東部地域、あるいは富山市内の路線等、まだまだ「投資」が必要と思うところもございます。そのためそのようなところに向けて、次の一歩二歩三歩進むということを来年度中に実施していただく必要があると思っております。

また、以前この会議でも申し上げましたが、通学定期の割引が現在の日本では事業者負担、つまり、利用した人だけが負担して、利用しない人は負担をしないという、アンバランスな受益と負担になっております。これについても、今後検討していく必要があるという方向になりました。これは国会の附帯決議でも決まったことでもあるため、通学定期の割引を事業者に負っているということを改めることについて、今回の予算にはありませんが、来年度着実に取り組んでいただきたいと思っております。

そして、今回の計画は私が紹介したＳＵＭＰをベースにしていただいたこともあり、一丁目一番地は市民参画であるということで、今回の戦略策定にあたっても、出前講座等、いろいろなことを皆さん実施していただいたと思います。しかし、県の職員だけが出前講座をするだけではいけないと思います。私自身は県外におりますので県外でこの話を普及していきたいと思いますし、県内にいらっしゃる方は自治体と協力しながら、全員でこの市民参画を盛り上げていくのがよいと思う次第でございます。私からは以上でございます。

●本田委員

富山大学の本田でございます。本日もよろしくお願いいたします。

まず、戦略の内容につきまして、前回の会議で申し上げました通り、異論ございません。全面的に了承したいと思っております。先ほども令和６年度の主な取組み、今後の進め方についてご説明いただき、この戦略で位置付けられた事業が動いていくことを実感したところでございます。

その上で私の方から今後地域交通戦略を進めていくに当たり、主に、「参画」ということに関して少しコメントさせていただきたいと思います。

本日の資料で申しますと資料２の、地域交通に関する「関係者でともに取り組む施策」につきまして、重要なキーワードである「公共サービス」、「投資」・「参画」ですが、車社会の富山県で、車と同じだけ移動の選択肢となりうる地域交通サービスにしていくことは難しいですが、大切なことはこの「参画」ではないかと思っております。

パブコメでも「参画」に関する意見は少なかったようです。すべての皆さんが地域交通について自分事として考えて、当事者意識を持ってもらうことが重要だと思います。将来もこの県内に住み続けたいと思えるようにするためには、何としても積極的に地域交通に「参画」していただくという必要があると思っております。

その上で、この「参画」の具体的な取組みにつきましては、私も普段から、県内の市民団体の方々と一緒に交通まちづくりに取り組んでいるところでございますが、この「参画」を促すために、特に地域交通の最大の利用者である、高校生、大学生に対して、この戦略の応援団になってもらいたいと考えています。

まずは学生の「参画」を通じまして、地域を盛り上げて、それを広げる形で、鉄道沿線にお住まいの県民、自治体、企業の方々にもぜひ自分事として地域交通に関心を持ってもらうように、引き続き活動していきたいと考えているところでございます。

この会議の委員の皆様方にも、ぜひとも自分事として、地域交通への「参画」を促すための取組みを後押ししていただければと考えているところでございます。短いですが、以上でございます。

●楠田委員

ありがとうございます。

ウェルビーイングであったり、ＳＵＭＰであったり、計画認定第１号であったり、非常に積極的で、作っただけではなく、アクションまで行う非常に良い地域だと感じております。この計画については非常に良い計画と思い賛同いたします。

私も「参画」の部分で、今後実施されてはいかがかと思うことがあります。車依存の地域で育ち、大人になっていくと「参画」ということが非常に難しく、一度車に慣れると公共交通には乗らなくなります。

現在では iPad やパソコンを使った教育のＤＸ化が教育現場で起こっており、利用者実態として、10 代の皆さんがどのような通学をしているのか、経路、時間、手段など、定期的に聞けるようになってきています。

例えば毎年入学時に、そのような情報を生徒に入力していただいて、通学手段についてどう感じているかを、ホームルームの時間などを活用し聞く時間を少し確保してもらえばすぐに状況が把握できます。

しかも、建設的に話ができるように、意見、改善案、できれば「参画」のアクションまで提案してもらうことを定期的に行えば、本日のこのパブリックコメントのような意見は、ネットから大量に出てきます。

毎日通学していると、本日も雨が降っているように、「雨が嫌だ」という情報が出てきます。そのため、何が嫌なのかを具体的に言語化してもらい、僕ならこうできる、私ならこうできるという案を出してもらい、それを聞いた事業者、自治体等、全員で知恵を出し合い考えることが「参画」に繋がると考えます。

大人は、やわらかい発想ができなくなってきている可能性もあるため、そのような若い方と皆さんで、一緒に作る側という意識を醸成しながら、コミュニケーションを

取れるようにできれば良いと思っています。
　しかし、大人の皆さんがどう「参画」するかがかなり難しいと思います。例えば、「参画」の接点として通学路の話をする、そうすれば親御さんと通学に関するコミュニケーションをとることができます。
　次に、定期券の購入時に「参画」の接点があると思います。現在はおそらく定期券を何の登録なく購入していると思いますが、最近では何でも会員登録させます。定期購入時に会員登録していただき、そこに様々な情報を入れていただいて、定期的に相互コミュニケーションがとれるような仕組ができたら良いと思います。その会員登録の手段としてmy route等を活用していただくのも良いと思います。そこで意見・改善案や、「参画」のアクション、公共交通をたくさん使っている企業等を把握できれば、その企業と一緒にできる取組みがデータとして見えてくると思います。それをＰＤＣＡで回せば、おおよその需要と課題がさらに明確化し、それに応じたいろいろなことができます。
　加えて、利用者自体だけではなく、利用したいが利用できない方の情報等を入れていければ良いのではないかと思っております。
　参考にしていただければと思います。以上でございます。

●畠山委員
　ありがとうございます。まず計画については私も賛同させていただきます。
　意見としては、皆さんがおっしゃっていた通り、私もその「参画」のところが、やはり非常に気になっています。「参画」ということについては私自身も地域に入って活動していますが、非常に難しいポイントと思っています。
　まず、一方的に言ったところで「参画」しないと思います。そのため「参画」したくなる工夫をどう作っていくかということがポイントだと思います。機会提供は自治体や、いろいろな方が周知することといった、縦のラインであると思います。しかし結局、住民の「参画」が進むのは地域のコミュニティであり、皆さんが使ってみて「これいいよ」等の住民同士の口コミがすべてと思います。
　そのため、それを促すためにはどうすればよいか、来年度に関しては運用のところで見ていく必要があるのではないかと思います。私自身も、できる限り来年度、地域の住民の皆さんともっとお話しさせていだきたいと思っています。これは提案ですが、部会等、このような全体の合意形成の場は当然必要です。しかし会議室で、皆さんたちだけで話すというよりは、さらに地域住民の皆さんと接しながら、現地、現場と対話をしながら、このような形で計画の運用を作っていくのはどうかと思います。
　そのため、とにかくこの「参画」の部分を、来年に限らず中長期に渡って、皆さんと一緒に取り組んでいければと思います。ありがとうございます。

●長尾委員
　富山国際大学の長尾と申します。戦略案に関しましては私も素案の時と同じく、賛

同させていただきます。

それで少し意見を言いますと、パブリックコメントに関して、今回５人の意見が述べられていますが、今後も定期的に意見を収集して、取組みに活かしていくべきと思います。今もご意見がございましたが、やはり県民の皆様がどのように受け止めているか、定期的なご意見は、非常に重要な意味を持つと思います。

それから２点目として、まちづくりとの協働ということです。昭和の時代から商店街やまちづくりに関して、地元で関連する委員会等にも多数参画してきた立場から、若干意見を言わせていただくと、昭和の時代、地方の私鉄の経営が、駅を拠点とした商業施設や共同店舗運営のような取組みが積極的に行われており、私鉄経営の売上げや利益に相当寄与していた部分があったわけです。しかし品揃えやサービス提供等の問題で、現在においては徐々に寂れて衰退の傾向にあります。改めてやはり商店における魅力づくりという部分においては、地域の生活と関係してくるサービス業、あるいは店舗運営等を時代に合わせた品揃えとサービスが提供できるように、改めて考え直す必要はあると思います。

それから、３点目として、「参画」の具体的な増やし方においては、量的規模が期待できると思います。群馬県のホームページに、「ＧｕｎＭａａＳ（グンマース)」というアプリの紹介がありました。ここで実施しているように、マイナンバーカードとの紐付けは富山県においても今後、具体的に進行できるように、ＭａａＳの進展とともにサービス機能としてしっかり組み込み、参画者の量的規模を確保することを今後の念頭に置いて対処をしていくべきと思います。

また、多くの県民の皆さんは、地域交通に関心のある人がまだまだ少ないため、地域交通を具体的に利用することによって利便性が高まること、いろいろなところへ行きやすくなっているモビリティ間の連結・乗換え等、これからは着実に供給サイドから提案していくべきと思います。

私自身、富山高専のバスを家から利用していますが、南富山で路面電車に乗り換えが可能です。そのようなものに対する提案や提示が積極的になされていないため、やはり県民の多くの方に、ここではこのような乗り換えが可能であることを今後も乗降客データからしっかり分析して、提案していくべきだと思います。以上です。

●品川委員

富山 my route 推進協議会の品川でございます。

まず、この地域交通戦略につきましては、これまでの多くの議論を踏まえて大変充実した、また「投資」・「参画」や木の「幹」「枝」「葉」という新しい視点を取り入れた画期的な、様々なプロジェクトの実装・実現に繋がる、未来を見据えた素晴らしい戦略になったと思っております。

そのような中で、私ども my route 推進協議会としても、先ほど事務局より説明があった富山県ＭａａＳ利用拡大事業について、私どももこの交通ＭａａＳの普及、my route アプリの一層の普及・拡大に、またこの交通戦略の実現に向けても、邁進して

参りたいと考えております。
直近で、my route は県内 24,000 ダウンロード、日当たりのアクセスも 200 に達しております。またデジタルチケットも毎月安定的に、400 枚、300 枚と売れており、現時点で 6,500 枚が年度内の販売となっておりまして、まだまだ利用拡大の余地はあると思っております。
今後も県と連携して、公共交通の利用促進や移動の活発化による、まちの賑わいの創出、経済の発展に、交通ＭａａＳ事業を通じて貢献して参りたいと思っております。
また、近々「とやまノーマイカーウィーク」のデジタルチケットを my route を通じてリリースさせていただく予定です。更に年度内に、富山市内の鉄軌道線ととやまロケーションシステムを連携させる予定です。
交通事業者、地域の利用者の皆様、そして地域社会全体の三方よし、win-win-win の関係を目指し、今後も富山ならでは、富山独自の交通ＭａａＳを継続発展させていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。以上です。

●庵委員
非常にシンプルでわかりやすい計画になったという点で非常によかったと思います。私のイメージから言うと、バックキャスティングにより、恐らく 20 年ぐらい先から見てこの５年間で何をしようかという計画に、最終的に落ち着いたと思っています。
満足度調査の言葉遣いの中で、２問目の「生きがいをもてたと感じたことはありますか」について、「生きがいをもてた」というのは満足度調査ではかなり大掛かりな表現にも聞こえ、継続性の問題等あるのかもしれませんが唐突だと思えました。
また、３問目の「お得に出かけることができた」という点は、お得感だけではなく、利便性や公益性を皆様に感じていただいた方が、ポイント社会ではありますが、いいのではないかというのは、意見として申し上げておきます。
ありがとうございました。

●松山委員
松山です、よろしくお願いいたします。
私も全面的に賛成いたします。私の方から３点ほどございます。
まず戦略の中でも通学流動についてもしっかり分析されておりまして、中学生が高校を選ぶ際に、通学のしやすさを条件にしていることが、アンケートでも出ております。また、県の教育委員会の県立高校教育振興検討会議にも参加していますが、一定の通学時間内にある高校から多様な選択ができるようにということをまとめております。子どもたちの学びの保証のためにも、公共交通の確保・充実をぜひお願いしたいと思っております。
２点目です。学生の頃から公共交通を理解することは非常に重要だと思っております。高校に限らず、総合的な探究の時間といった授業がございます。その中から、県

民のウェルビーイング向上に資する施策のこの１つを知ることで、また、公共交通が充実した富山に帰りたくなるような施策になればと思っております。

３点目です。まちづくりと連携した駅の強化とあります。線路や道路といったインフラではなく、駅を拠点とした周辺のまちづくりに「投資」・「参画」を促すことを市町村と連携して推進、促進していただきたいと思っております。期待しております。よろしくお願いします。

●北岡委員

富山県自治会連合会でございます。

戦略については、異議はございません。大いに賛同いたします。今回のこの「投資」・「参画」という考え方については、前回も申し上げました通り、自治会連合会として大いに賛同するものでございます。

資料４にある、地域の活力・魅力向上のための「投資」関連事業の６本、並びに「参画」関連事業の５本につきましては、本当にすばらしいと思い期待しているところでございます。そのために、施策６－１、支え手としての積極的な参画のあり方は、自治会連合会、利用者として、積極的に県民に呼びかけていきたいと思いますが、県民としての「参画」の仕方はいろいろあると思っており、この後また私たちも協力するために勉強させていただきたいと思います。

ただ、高齢者が免許証を返納することで、地域交通への依存が大きくなっていくわけです。そこで、その方々からのご意見として、バスロケーションシステムは、まだまだ、開発あるいは利用を促進していく必要があるという声が聞かれることも事実でございます。この点を１つ、提案させていただいて、より良い利用者としての「参画」に務めていきたいと思っております。以上でございます。

●日吉委員

あいの風とやま鉄道の日吉でございます。

まず計画としては賛成でございます。加えて各部会での意見の積上げ、鉄道事業者等の公共交通機関の意見を、十分汲み取っていただいたということを感謝申し上げたいと思います。特に地域交通サービスを「公共サービス」として位置づけることについては、先進的な計画であろうと思っております。

今後、この計画に基づいて、いろいろ実行されると思いますが、やはり皆さんの意見にもあったようにアフターケア、進捗状況のチェックについて、しっかりと実施していただければということでお願い申し上げたいと思います。以上です。

●鹿野委員

ＪＲ西日本金沢支社の鹿野でございます。

まず、富山県地域交通戦略案につきまして弊社としても賛成させていただきます。

改めて、これまでの議論を踏まえ、今回の計画において地域交通サービスを「公共

サービス」と位置付け、自治体・県民の役割を、事業者への側面支援から、自らの地域に対する「投資」・「参画」へと舵を切るといった考えについては、非常に先進的なものであり、交通事業者としても心強く、大変ありがたく感じております。これらの考えを、計画の策定と並行して、実際の施策の推進に結びつけている点についても、非常に大きなポイントだと考えております。

また、パブリックコメントでも様々なご意見をいただいておりますが、それらの意見に対する施策も、令和６年度予算に早速盛り込んでおり、計画の推進力といった点でも、大変力強いものを感じております。

弊社の路線に関する事で申し上げますと、先日２月８日に、城端線・氷見線鉄道事業再構築実施計画について、国土交通大臣の認定を受けることができました。本計画は、事業者・自治体・国の役割分担・責任分担により、地元主体で地域に適した公共交通の再構築が図れるものと認識しておりますが、まさに富山県のリーダーシップのもと、本計画の理念を反映しつなげたものであり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

戦略を踏まえた令和６年度の主な取組みとして、城端線・氷見線再構築事業の関連についても、記載いただいております。引き続き弊社としても、再構築実施計画における取組みを着実に実施し、地域のまちづくりに合致した、ご利用しやすい、持続可能な交通体系の実現に向けて、地域の皆様とともに、しっかり推進していく所存です。

また３月 16 日には、北陸新幹線の敦賀開業を迎えます。ご当地にとっては、いよいよ第２の開業ということで、観光で訪れるお客様も多くいらっしゃると思います。観光客というのは地域の公共交通のご利用にも直結するものと認識しております。そのためご当地の魅力を我々としてもしっかり発信し、多くのお客様に訪れていただく、その役割もしっかり果たしていきたいと思っております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

●新庄委員

富山地方鉄道の新庄でございます。よろしくお願いいたします。

一昨年の６月にこの戦略会議が設置されて以来、利便性の向上を中心とした議論に、本会議を含めてその他の部会にも委員として出席し、いろいろと意見させていただいております。

そして利便性向上・持続性確保に繋がる、多くの具体的な施策が、「投資」・「参画」の対象として挙げられたことは、この県の地域交通をより良くしていこうとする関心、決意の高まりとして、その成果に私も大きく期待するところでございます。

しかし、公共交通を事業として運営する当社とすれば、この本会議、部会においても、第１回目の会議から一貫して、特に当社の鉄道線の運営が、現状のサービスレベルを維持できる状況にないことを、数値・データでもお示ししながら、問題提起させていただいており、民間の事業者として、公共交通であるがゆえに、その公共のサービスを赤字であっても提供し続けている、あるいは提供を求められているという、こ

のあり方について、更に踏み込んだ見直し議論、具体的な施策等を、この会議で議論していただきたかったというのが、率直な思いでございます。

このような思いもありますが、一方でこの戦略の中心となる関係者の役割分担・責任分担の考え方が、資料３、戦略案 53 ページにあるように、交通事業者として果たすサービスレベルは事業者の経営の範囲、すなわち、特に民間であるため、採算性等の経営の考え方を尊重するということと、それを超える部分、要は事業として収支が合わない部分のサービスを必要とするならば、自治体自らが「投資」により実現するということが明確にされたことについては、これまで企業性と公共性の両方が成り立つような運営に苦労してきた当社にとっては、大きな転換点となって、事業者として培ったノウハウをよりサービス重視に向けることができる、これまでにない発展的な考え方だと思っております。よってこれらを含むこの案に賛成いたします。

これから当社とすれば、もはや待ったなしの状況の鉄道線、この経営の範囲をお示しすることとなって参りますが、電気料金等の費用増に加えて、運転手不足等をさらに持続性が厳しくなっていることからすると、特に運行形態や本数等、経営の範囲で提供できるサービスの見直しは避けられないと思っております。そのため今後、特に沿線の自治体には、これまで当社が使命感を持って提供してきた現状のサービスレベルの維持、さらなる向上に向けた「投資」について、ぜひ必要とお考えいただいて、その体制・仕組づくりに向けた議論を一緒に進めたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

●石橋委員

富山県交通運輸産業労働組合協議会の石橋です。働く側からの視点ということで参加をさせていただいていると思っております。

計画は、前回の素案、今回の計画案ということで、特段ご指摘する点はありませんが、計画目標「地域交通利用回数年間 50 回」という、大きな目標を掲げたと私自身は思っています。それに近づける、到達するということで、この計画の案の中にもありますが、やはり担い手の確保・育成は喫緊の課題であると思います。そこが確保できないと、この目標の達成にも影響してくると考えております。

「施策１−４　サービスを支える担い手の確保・育成」にいくつか計画として盛り込まれましたが、本来は事業者が労働者を確保するのは当然です。しかしながら支えるという意味でも、いろいろな角度からの支え方について今後、ＰＤＣＡの中で議論していただきたいと思います。

そして県の交通戦略計画ができたということで、市町村ではすでに地域交通計画がある、作成している、これから作成する等、いろいろございます。やはりそことの連携も、目標達成のために大きな役割を果たしてくると思います。そのためぜひ当初あった「幹」に「枝」「葉」、ラストワンマイルも含めて、すべての移動に関わる継続可能な体系をこれからきちんと計画通り作り上げていけることを期待しております。

そしてそこに働く担い手は前回も申したように、やはり職業労働者であっていただ

きたいと思います。新しい交通手段もいろいろと考えていく交通空白地域等ありますが、私たちとすれば、これはやはり、矜持・プライドを持って仕事に携わる、そのような職業労働者が、きちんと安全を担保して関わっていくということを最後に申し上げておきたいと思います。ぜひ今後のＰＤＣＡの中で、そのような視点からの議論を継続していただきたいと思います。以上です。

●小竹委員

（新相ノ木駅開業 10 周年記念セレモニーの様子を動画で再生）

見ていただいた通り、手づくり感満載のイベントではありますが、当町としてはこのように、公共交通、地鉄に少しでも乗ってもらえるよう、精一杯取り組んでいるところでございます。

ほかにも、富山地方鉄道は電車の種類がたくさんあるというショート動画や、３年前の上市駅開設 90 周年の動画もあります。皆さん上市町の公式 YouTube チャンネルを、ぜひ一度見ていただければと思います。

最後にこの今回の計画に異論は全くございませんが、小さな町であるためできることは限られますので、身の丈に合った形で精一杯、利用促進、支援に努めていきたいと考えております。以上でございます。

●石井会長

どうも、ありがとうございました。

大変素晴らしい動画も見せていただきました。園児の皆さんが本当に駅や電車を愛していることがよくわかりました。ありがとうございました。

そのほか、委員の皆様からございますでしょうか。

（委員から挙手なし）

それでは最後になりますが、北陸信越運輸局の白砂委員よろしくお願いいたします。

●白砂委員

国土交通省北陸信越運輸局交通政策部、白砂と申します。

今日お示しいただいた戦略の最終案については、賛成いたします。

先ほど新田知事のご挨拶にあったように、１年８か月という時間をかけて議論を重ねてきたわけですが、県としての計画策定は全国的にも先発隊ということで、様々な模索をしながら、新しい手法を取り入れ、各部会による議論を経て、富山県らしい計画ができたのではないかと思っております。

先ほど事務局からもご説明いただいた、令和６年度当初予算案にも議論の内容がきちんと反映されており、計画が進むことを実感しております。

今後、ＰＤＣＡを回していく上で、しっかりと振り返りをするためには、現場の声を丁寧に汲み上げることが大事だと思います。そのため、富山県においては、関係自治体との連携をますます密にして、しっかりと舵取りをしていただきたいと思ってお

ります。
　最後に、関係者全員のウェルビーイング向上が実現できることを期待しております。今日はありがとうございました。以上でございます。

●石井会長
　ありがとうございます。意見交換はこの辺で終了をさせていただきたいと思います。委員の皆様には貴重なご意見、ご提案等たくさんいただき、心からお礼申し上げます。
　それでは本日の会議のまとめに入りたいと思います。
　本日の資料２、資料３の計画案につきましては、富山県の地域公共交通計画となる富山県地域交通戦略を本会議として了承をしたいと思いますが、委員の皆様いかがでございますでしょうか。
（委員から異議なし）
　ありがとうございます。特に、反対のご意見がございませんでしたので、本会議として富山県地域交通戦略を了承させていただきました。
　それでは資料４、先ほど事務局からもご説明がございましたが、部会並びにこの全体会議も令和６年度も引き続き開催をいただけるというスケジューリングになってございます。私の方からも重ねてお願いしたいのは、本田委員をはじめ、皆様から提案があった、県民の皆様のより具体的な公共交通への「参画」、そして、それに対する支援について、委員の皆様からもいろいろな場面でご意見・ご提案等をお話いただければ大変ありがたいと思っております。
　事務局においては、本日了承された戦略について、遅滞なく公表の手続きを進めていただきますよう、よろしくお願いいたします。
　各部会の部会長をはじめ、委員の皆様においては、一昨年６月から１年８か月の長きにわたり、この会議や各部会で様々なご議論をいただきましたこと心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。先ほどご議論いただいた通り、来年度も会議を開催していきます。引き続きご指導、ご協力を賜りますよう切にお願い申し上げます。
　それでは、本日の会議は以上になりますが、新田知事、全体を通してのコメントをお願いいたします。

４　閉会

●新田知事
　石井会長、それから委員の皆様方、本当にありがとうございました。１年８か月にわたる議論の結果を本日とりまとめていただきました。
　冒頭にも申し上げましたが、去る２月８日に城端線・氷見線の鉄道事業再構築実施計画の認定を受けました。２月 15 日から 10 年間、この計画に則り、ＪＲからあいの風とやま鉄道への移管等を進めていきたいと考えております。

本日の資料の中に、本県の令和６年度の予算案の一部も入れてありますが、早速そこにも城端線・氷見線再構築事業ということで４億円あまり組み込んであります。これはＩＣカード対応改札機の整備等を支援するということで入れてあります。まさにこの戦略にある通りに、富山県としても「投資」を行っていくということです。

ただこの 10 年間、この計画を実施して収支は改善していきますが、それでも７億円の赤字という見込みが出ています。やはり、沿線の４市、また県民の皆さんに「参画」をいただいて、１人でも多く１回でも多く、この鉄道を活用していただいて、収支をより良くしていく、地域全体で黒字にしていくことを目指していきたいと思います。

現在、新しい社会経済システムを確立するという柱を立てておりますが、この城端線・氷見線に限らず、地域交通はその大きな部分を占めると思います。その地域交通の今後について、今回の戦略がまさに背骨になると、大変にありがたく思っております。

今後もこの戦略をしっかりと実践しながら、富山県の持続可能な交通を、富山県としても、しっかりと維持していき、そして、県民の皆さんの「参画」も促していくことに取り組んでいきたいと思います。どうもありがとうございました。